

第4回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

- 日 時：令和5年3月15日（水） 13：30～15：00
- 場 所：向日町競輪場 向日町会館 2階会議室
- 出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、小長谷委員、徳廣委員、山本委員

<議事>

(1) 「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」について
「資料1」に基づき、京都府から説明

(2) 今後の対応について
「資料2」～「資料4」に基づき、京都府から説明

(山本委員)

- ・ 資料3の1頁の「公営競技の状況」について、どの公営競技も前年度より売上が低くなっているが、実際はどの公営競技も売上は伸びているのではないかと。

(京都府)

- ・ 令和4年度の「公営競技の状況」は、令和5年1月末時点のもので、前年度（令和3年度）の売上は年間を通じてのものとなっている。公営競技は、全般的に売上は伸びているが、伸び方は鈍化している状況である。
- ・ その中でも競輪は比較的伸びしろが大きく、令和3年3月に決定された中期基本方針において令和7年度までに全国の売上目標1兆円を掲げているが、令和4年度中に売上が1兆円を超えるのではないかと全国組織では見込んでいる。

(奥野委員)

- ・ 資料3の1頁の車券売上のチャンネル別の状況はどうか。

(京都府)

- ・ 本場売上は、長期的なトレンドとして減少傾向にあるが、昨年度と比較すると新型コロナウイルスの影響は小さかったことから横ばいとなっている。増加しているのは、電話投票及び民間ポータルで、特に民間ポータルが増加傾向である。場外売上はどちらかというと減少傾向にある。

(川勝座長)

- ・ 構造的には民間ポータルが伸びているということで、全体としてはその点が1つの要因となって好調な方向に動きつつあるということである。

(小長谷委員)

- ・ 向日町競輪場は、防災の拠点となることはあるか。

(京都府)

- ・ 向日町競輪場は、向日市の緊急避難場所に指定されている。

(小長谷委員)

- ・ サイクルパーク京都の利用状況は令和3年度より増えているが、バンクの利用状況は3月1日現在で少し減っているがどうか。

(京都府)

- ・ 現時点では少ないが、最終的には概ね前年度並になると思われる。

(岡崎委員)

- ・ 先日、民放の取材があり、向日町競輪場について放送されたが、非常に悪いイメージで放送されたような気がした。来場者の「日本で一番汚い競輪場」との発言や、向日市の紹介でも、阪急東向日駅前の商店街のさびれた様子が映し出されていた。
- ・ 向日町競輪場が老朽化で、使い勝手も含めて悪いイメージがあると、向日市や周辺地域のイメージも悪くなる。今後の整備の中で、競輪事業だけではなく、周辺環境も含めて、地元の我々も協力して立て直していかなければならないと感じた。

(川勝座長)

- ・ 大変重要な御指摘であり、後ほど皆さんと議論させていただきたい。

(3) 意見交換

(徳廣委員)

- ・ 先日、自転車競技の全国高校選抜大会が北九州メディアドームで開催され、私も参加した。北桑田高校の選手が、優勝を含めて4種目で入賞した。コロナもある程度改善してきた中で、非常に盛り上がり、選手・保護者だけではなく、一般の方の入場もかなり多かった。日本代表選手が海外の世界大会でも活躍するようになってきているので、競輪や自転車競技が注目を浴び出していると感じる。特に、マスコミやネット上でも取り上げられることが増えている。注目を浴び出したということを感じている。
- ・ そうした中、競輪事業の改善をどのようにしたらよいかということで、施設改修も頭に入れて考えると、北九州メディアドームは非常に大きな建物で、ドームになると外部からは何をやっているかほとんど見えないというデメリットもあるが、施設的には素晴らしい、選手が競技をするには非常に恵まれた環境である。
- ・ 一方で、中だけで競技をやっているという感じではなく、外からも見られるようなものがいいのではないかと。そうしたことを考えると、日本で初めての屋根のあるバンクがあればいいのではないかとこの思いを持ちながらレースを見ていた。
- ・ 最近できた競技場には大型モニターが設置されており、リアルタイムでモニターに映し出される。外から見られるような形になれば、何をやっているのかということも含めてわかりやすいのではないかと。実際に、モニター画面を見ながら、レース展開を冷静に判断している選手も多く、より魅力が増すのではないかと。また、バンクを他の用途に使用する際にも、モニターは様々な用途に有効に使えるのではないかと。
- ・ 選手目線になってしまうが、選手ファーストで考えると、競輪選手が向日町競輪場のバンクで走りたい、向日町競輪場でレースが開催されるとよいと思ってもらうことは非常に大事なことである。現時点では、選手宿舎の改修は対象になっていないようであるが、浴室やトイレの洋式化が進んでいないことなど選手を全部後回しにしているのではないかと。北桑田高校の生徒達もよく使わせていただいているので、そうした話は聞いて

いる。競輪場が本当に生活の場に近ような競輪選手にとって宿舎でどのように体を休めて、どのように過ごすのかということを考えると、浴室・トイレも大事である。

- ・ ガールズケイリンが注目を浴び出して、選手になりたいという人口が増えてきたのではないかと感じており、注目もされ出している。女子選手が宿泊することを考えたときに、浴室やトイレの話も大きい話ではないか。建物自体の改修はともかく、水回りの整備は検討が必要ではないか。施設を使う選手ファーストで考えるべきではないか。
- ・ 自転車ロードレースのアニメ「弱虫ペダル」がNHKで放送され非常に注目をされており、人気が再燃している。昨年、北桑田高校が「弱虫ペダル」のリアル版ということで、NHKで特集を組んでいただき、放送されたがすごく反響があった。
- ・ 漫画家のどなたかに競輪の漫画を描いていただけないかと思うくらいであり、そうすれば、向日町競輪場だけでなく、競輪の人気がもう一段階上がるのではないか。アニメの発信力は、海外を含めて非常に大きいので、そうしたことにも取り組めないか。

(山本委員)

- ・ 施設全般に関して、やらなければいけないことがたくさんありすぎる。一方で、費用をどうするのかという話が必ずついてくるが、全部やろうとするとまだまだ金銭的にはしんどいところがあり、それとどのように折り合いをつけていくかということになるのではないか。
- ・ 比較の対象となる他の競輪場もそうであるが、公営競技だけでなく、スポーツ施設が、見る方もする方も非常に快適な施設になってきている。今回の施設整備のきっかけを逃すと、また何十年も先になってしまうので、やれることはやるべきではないか。
- ・ 徳廣委員から発言があった部分は、できればというよりも、どちらかというともラストに近い感じもするので、最小限きちんと快適であることは当然であり、その部分を含めて、それ以外の時にどう使えるかということと一緒に考えていく。
- ・ 地元利用として、レースを開催していないときに施設をどのように使っていくのかは、ある程度、地域住民の皆さん、行政も含めて、どういったことに使いたいのかを反映させられるとよいのではないか。
- ・ 資料3の1頁にある「イベント・催事等」について、可能であれば、KARA-1といったようなイベントの開催が常設化できるなど、人を集められるような種を持ちながらこの施設を有効に使っていくということも一つの方法ではないか。余剰スペースをどのように活かしていくのかを、基本構想の中で何らか位置付けられればよいのではないか。その点については、地域住民の皆さんの考えを尊重できれば、なおよいのではないか。

(奥野委員)

- ・ 公営競技としての採算も当然ながら大前提であるが、選手を育成し続けることによって競輪事業が継続するという含めると、環境整備への投資は、施設の観点だけではなく、競輪事業全体の持続性に関係することになるのではないか。京都の選手を育てるだけではなく、多くの選手が、向日町競輪場で走りたいと思ひ、是非レースに参加したいと思うことが大事ではないか。「根性だけで頑張れ」と言い続ける時代でもないので、とても大事なことはないか。
- ・ 余剰スペースがどのようにしてお金を生み出すのかということも、財源という意味で

は期待するところであり、検討できるのではないか。今後、余剰スペースの利活用について、リニューアルされる向日町競輪場と相乗効果のある活用方法の提案を民間事業者に求められるかと思うが、余剰スペースから生まれる資金も、競輪事業全体の魅力やこのエリア自体の魅力に関わる、単純に余剰スペースの魅力だけではなく、全体の魅力に還元できるような提案になると、資金の捻出という意味では、やらなければならないところ、お金をかけたいところにかけることができるのではないか。

- 一方、選手賞金は現金で手渡しされていると聞く。それ自体は、選手の士気が上がるなどプラスの効果もあるとは思われるが、今後の継続的な経営改善からは、マイナンバーカードの普及率なども踏まえると、競輪事業の運営がキャッシュレスになることで、逆にだからこそクリーンであるといったイメージアップも図れるのではないか。
- 入場料50円も現金で徴収されているが、これも全く無駄であると思っており、それ以外のこのエリアの利活用の観点からも、そうした部分をもっとスリム化し、人手のかかるコストにつながる部分を何で削減するのか。お金を数えたりするよりも、楽しまれる方に提供するサービスにより人手をかけるといった運営ができるとよいのではないか。

(川勝座長)

- 資料3の2頁の「投票窓口の自動化(無人化)率」に関して、「投票窓口の自動化率 93.8%」とあるが、この数字は全てキャッシュレス決済が可能な仕組みなのか。

(京都府)

- キャッシュレスではなく、人を介さないという意味での自動化である。

(小長谷委員)

- 選手の育成、次世代に繋がるということが非常に大事である。立派な施設、ドームや大型モニターといったことで憧れて選手になる方も出てくることは本当に大事である。
- そうした施設や余剰スペースの整備は、なるべくお金をかけないということで、池袋のビル群にも広い芝生に変わったところがあったり、高槻駅の駅前も広い芝生のスペースになったり、草津駅の近くもそういうスペースになったりと、親子連れが非常に多く来られているということで、遊具などを作らないといけないということではなく、広い芝生のスペースだけでも、子どもたちが安心して遊べるスペースが作れるのではないか。そこにドームのような自転車競技施設があって、自由に外からも見ることができるようにしたり、モニターを外側につけたりすれば、芝生のスペースで遊んでいる時に選手の姿を見ることができ、身近にかっこいいと思えば、自分も選手になろうという子どもたちやガールズケイリンにチャレンジしようという方も出てくるのではないか。
- 施設整備にもメリハリをつけて、立派な施設の部分とそれ以外の部分に区分けし、立派な施設の部分には賃貸する部分も整備し、自転車のウェアなどの自転車関連業者に貸して、地代や家賃を安定的に徴収できるような仕組みなどができればよいのではないか。

(岡崎委員)

- 結論は出されていないが、施設の改修をどうするかで、土地利用も非常に変わってくるのではないか。全面的な改修でなくても、向日市にとっては都市計画上の大きな変更にも関わる問題になってくる。広大なスペースを有効活用してほしいという想いは地域

住民の皆さんも同じである。

- ・ 都市計画上の用途地域の変更は平成8年に行われ、住居専用地域であったこの地域が、競輪場の改修のために近隣商業地域に変更されたという経緯もある。また、地区計画の中では、緑地の確保が大きく謳われていた。
- ・ 向日市は狭い地域に、6万近い人口があり、緑が少ない地域でもある。そうした中で、競輪場の広大な敷地は緑に覆われてほしいし、その中で競輪場が運営されたらよいのではないかと。こうした経過を踏まえ、今後、余剰スペースの活用を考えていかなければいけない。
- ・ 特に、競輪場の南側は住宅地に隣接しているので、そことの間隔をどれぐらいとるのか。競輪場が開放的になれば、距離感が近くなるので、その部分との緩衝をどのようにするのかということも含めて、議論していかなければならない。
- ・ 近隣地域に子育て世代が多いこともあるので、子どもたちが気楽に来て、遊べる施設も兼ね備えていただければ一番よいのではないかと。
- ・ 余剰スペースの活用は、向日市民にとっては一番の関心事である。一方で、緑地ばかりであれば、活性化につながるのかということもあるので、緑化と活性化がうまくかみ合った施設に生まれ変わればと思う。

(徳廣委員)

- ・ サンガスタジアムにも少し関わっているが、先日、京都サンガとFC東京との試合があった。東京と京都のチームの試合であったが、それ以外の他府県ナンバーの車もかなり多く来ており、非常に賑わっていた。
- ・ サポーターに聞くと、サンガスタジアムに来るのが楽しいとのことであった。競技場自体に魅力があって、サンガスタジアムで試合を見るのが好きであるということで、違うチームのサポーターも来ている。集客を考えた時に、競技場自体の魅力が大切であると感じた。
- ・ サンガスタジアムは、アクセスもよく、駐車場もお金を払えば充分にある。スポーツクライミングや3×3バスケットボールコートがあり、様々なスポーツが楽しめる。芝生広場には遊具があり、試合が開催されていないときも多く多くの親子連れが遊具や芝生で遊んでいる。非常によい例なのではないか。施設整備までには時間がかかったが、人が集まるよい施設になった。
- ・ 向日町競輪場もアクセスはよく、京都だけでなく京阪神一円から来やすい。芝生広場があって、子どもが安心して集える場所、府民が楽しんで安心してくつろげる場所、他府県からも選んで来てもらえる場所、そういう魅力が詰まっているのではないかと。
- ・ スペースの関係もあり、あれもこれもとはならないが、様々な調整する中で、可能な施設を整備し、人を呼び込む魅力がある施設としてのポテンシャルは持っている。また、選手や競技団体に話を聞く中で、京都府に不足しているスポーツ施設はまだあると感じている。サンガスタジアムに「リード・ボルダリング・スピード」と言われる国際レベルのクライミング施設を設置したのも、47都道府県のうち沖縄県と京都府だけにはなかったのが、京都府にも作ろうということになった。様々な競技団体からの要望が、例えばスポーツ協会、京都府のスポーツ振興課に寄せられていると思うので、そうした意見も聞きながら、府民のニーズでもあると考えられるので、どういうものを整備していくかということの参考にできるのではないかと。

- ・ 災害時の緊急避難場所であることを考えると、屋根があれば、日本で初めてのバンクでよいPRになるとも思う。大変なことかもしれないが、緊急避難場所として人が集うとしても、屋根や電気があることは大切ではないか。
- ・ 外で子どもを遊ばせていても、小さい子どもをずっと日向にさせるといってもいらないし、お母さんもどこかに座って日陰で休んでいられるようなスペースも必要である。安心して、楽しんで人が集まるといった構想が必要ではないか。

(川勝座長)

- ・ 屋根の整備にはお金はかかるが、見方を変えると付加価値を付けるということでもある。ただし、優先順位があり、限られた予算の中で資源を有効活用する必要がある。でも、それがあつた方がよい。しかもそれは誰にとってもあつた方がよいということであれば、例えばその部分に関しては、クラウドファンディングで寄付を全国から募ることも考えられる。
- ・ 関係者という言葉がよく出てくるが、議論している時に感じるのは、関係者は非常に多様であるということである。向日町競輪場が次のステップに移る際には、関係者はより多様化してくるのではないか。そうなったときに、多様化した関係者から、皆さん屋根があつたらもっとよいと思いませんかというようなお金の集め方を屋根に関してだけやってみる。それ以外はスタンダードなお金の集め方で整備するというやり方もあるのではないか。

(川勝座長) (まとめ)

- ・ 委員の皆様から多くの御意見をいただいた。これで全てではないと思うが、整理させていただく。
- ・ 1点目は、施設をリニューアルすることになることから、「誰にとっても魅力的な、憧れの場とする」、いわば「聖地をつくる」といったような大きなコンセプトがいるのではないかということである。
- ・ 関係者が非常に多様化しているという話をした。「選手ファースト」という話もあつた。選手、選手を支える監督・コーチや地域住民の皆さんなど、本当にありとあらゆる関係者がいる。「選手」という括りでみても、女子選手への配慮という話もあつた。誰にとっても、魅力的な、聖地となり得るような競輪場を構想するという、この一番大きなビジョンを皆さんで共有することが大事なのではないか。
- ・ 2点目は、メイン競技としての競輪があるが、もう少し面的にこのエリア全体の魅力を上げていくということである。レースを開催していない時の方が年間を通じては多く、その際には選手が練習する場として開放する、選手を育成する場としても必要なことではあるが、地域住民の皆さんが利用するスペースとしても魅力的なものに仕上げていくという意味では、一つ一つを点で考えるのではなく、面的に考える、そういう発想を常に持つておかなければいけないということである。同時に大事なことは、イベントの話もあつたが、イベントよりも日常利用のほうが大事ではないか。イベントの際、一時的に人が集まってくるが、一気に引いて行くということであれば、それは有効利用されたことにはならないので、むしろ日常的な利用を重視するような面的なスペースの活用を考えていくといったコンセプトが大事ではないか。
- ・ オープンスペースの話もあつたが、子どもを育てるようになって思うのは、子どもは

天才なので、広いスペースさえあれば、遊具がなくてもみんな楽しく遊んでくれる。親としては、子どもが飛び出したときに車が来ないように広いスペースがあるだけで、子どもを安全に安心して遊ばせることができるということもある。

- 向日町競輪場は、全国的には減少している子育て世代が周辺に集積していること、周辺地域を見渡しても競輪場が最も広い開けたスペースであることなど、様々な好条件が揃っている。例えば、アメリカ人はオープンスペースが大好きで、子どもだけでなく、大人も芝生が広がっているところで本を読んだり、昼寝したりするなど、そうした空間を楽しむことを重視している。日本の若い世代も特にそういった感性を強く持っており、これから観光客など外国人が訪れることも増えていくことを考えると、関係者が多様化する中でそうした方々もその対象になってくるのではないか。
- ついでに競輪なのか、ついでにオープンスペースで遊ぶのかどちらでもよいが、そういった様々な選択肢がこのゾーンにはあるというような構成が、基本構想でできるとなおよいのではないか。要するに、いかにエリア全体の魅力を引き上げるか、それが多様な関係者にうまく対応していくことになる。
- 3点目は、2点目とも関わるが、多様な関係者の中に、上手く民間事業者を巻き込んでいくことが大事であるということである。
- 経営のことも考えると、民間事業者に参画していただくためには、ビジネスとしてのうま味がないと参画してくれないのは、当たり前のことである。公益性との両立、公益性がしっかり担保されていることが大前提にはなるが、民間事業者がビジネスをして、一定の収益をあげられる活用を考えることは何も問題はないと思われる。
- 公益性の中には、安全面の確保も当然含まれる。住宅地との境界線にしっかりとバッファゾーンを設け、安全面はもちろんのことであるが、旧来的な、あまりイメージのよくないような雰囲気が漂うようなエリアは見直して、安全面及びイメージをうまく両立させるようなバッファゾーンをしっかりと構想していく。
- この3点は、結果として収入増にも関係していくであろうし、地域住民の皆さんに愛され、安心して過ごせるゾーンということと上手く結びつけていくことが期待できるのではないか。

(以上)